

大雨・台風に備える

9月1日は、防災の日です。
大雨や台風など、防災に対する正しい知識を身につけ、
災害に備えましょう。

防災の日は、大正12年9月1日に起きた『関東大震災』の教訓を忘れないという意味と、この時期に多い台風への心構えの意味も含めて昭和35年に制定されたものです。

毎年、地震や台風、集中豪雨などにより、日本各地で大きな被害が発生し、貴重な財産や尊い生命が奪われています。

今年も7月11日から14日にかけて起こった九州北部での大雨をはじめ、8月14日には近畿地方各地に洪水や土砂による災害をもたらしました。
私たちは、大雨や台風などの

自然災害の発生を防ぐことはできませんが、事前に備えをしておくことで、被害の軽減を図ることが出来ます。
日ごろから防災に対する正しい知識を身につけ、災害に対する備えをもう一度確かめましょう。



○自分で行う備え

近年、台風や異常気象等により、毎年大きな災害が発生しています。

警報などの防災気象情報を把握することにより、生命の危険や被害を未然に防いだり、軽減したりすることが可能です。テレビやラジオなどの情報に十分注意してください。また、台風や大雨の危険が近づいているというニュースや気象情報を見たり聞いたりしたら、災害への備えを確認しましょう。

●家の外の備え

大雨が降る前、風が強くなる前にいきましょう。

●窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する。

●風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定したり、家の中へ移動させる。

●家の中の備え

●非常用品の確認

懐中電灯・携帯用ラジオ（乾電池・救急薬品・衣類・非常用食品・携帯ボンベ式コンロ・貴重品など

●室内からの安全対策

万一の飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておく。

●水の確保

断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する。

●避難場所の確認など

●学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認しておく。

●避難するときは、持ち物を最小限にして、両手が見えるようにしておく。

●事前の備え

・側溝や排水溝は掃除して水はけを良くしておく。
・飛散防止フィルムなどを窓ガラスに貼っておく。
・普段から家族で避難場所や連絡方法などを話しあっておく。

○「大雨が降り出したり、台風が接近している」ときは...

●気象台が発表する「台風情報」、「警報・注意報」などに気をつけましょう！

台風の影響が考えられる場合や雨などにより重大な被害が発生する恐れがあるときは、「台風情報」「警報・注意報」が発表されます。テレビやラジオから最新の情報を入手してください。

●危険な場所に近づかない

雨で増水した小川や側溝は境界が見えにくくなり、転落事故が発生します。また、山崩れ・がけ崩れも起こりやすくなります。日頃は安全と思われる場所でも油断せず、これらの場所にはむやみに近づかないようにしましょう。



●避難の準備

・避難勧告が出てから慌てないよう、避難場所までの道順や避難指示の伝達方法、隣近所との協力体制などについて、再度確認しましょう。



●災害発生の危険が迫ってきたら...

・災害の危険が迫った地域の住民に対して「避難勧告」や「避難指示」を行ないます。これらの指示は、防災無線・広報車などによって伝えられます。
・危険を感じたり、避難指示があった場合は、すぐにその指示に従えるよう準備し、あわてず速やかに避難しましょう。
・避難の前には、必ず火の始末を

用語 CHECK!!

□避難勧告

・人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。
・発令された場合、通常の避難行動ができる方は避難行動を開始してください。

□避難指示 **緊急度高**

・人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。または人的被害の発生した状況。
・発令された場合、直ちに避難行動を完了してください。

●避難先では...

・勝手な判断や行動をせず、指示に従いましょう。
・引き続き「台風に関する情報」、「警報・注意報」などの情報に注意して、最新の情報を入手しましょう。

●閤防災課

☎(25) 8133

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる	・都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。 ・マンホールから水が噴出する。 ・土石流が起こりやすい。 ・多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要